



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	The stranding records in Matsumae, Hokkaido during 1992-2002 (Short report)
Author(s)	MATSUDA, Ayaka T.; MATSUISHI, Takashi F.; ISHIKAWA, Hajime et al.
Citation	Japan Cetology, 30, 7-10 https://doi.org/10.5181/cetology.0.30_7
Issue Date	2020
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/84437
Type	journal article
File Information	JC_30_2.pdf, 本文



1992年から2002年における北海道松前町の鯨類漂着記録(短報)

松田 純佳¹⁾ 松石 隆¹⁾ 石川 創²⁾ 山田 格³⁾

The stranding records in Matsumae, Hokkaido during 1992-2002.

MATSUDA Ayaka T.¹⁾, MATSUIISHI Takashi F.¹⁾, ISHIKAWA Hajime²⁾, and YAMADA Tadasu K.²⁾

要 旨

北海道松前町から1992年から2002年における同町内の鯨類漂着記録の提供を受け、写真から鯨種と性別を可能な限り判定した。判定の結果、オウギハクジラ9個体、ツチクジラ1個体、ミンククジラ1個体の11件11個体(SNH13901~SNH13911)の漂着記録が得られた。

Abstract

We received the whale stranding records from Matsumae-cho, Hokkaido, for the period 1992-2002 in 2013. Species and sex were identified as far as possible from the photographs provided. As a result of the identification, 11 individuals (SNH13901 to SNH13911) were obtained in 11 cases: nine individuals of Stejneger's beaked whales, one Baird's beaked whale, and one minke whale.

緒論

1988年に北海道松前郡松前町沖の流し網にかかり死亡漂流していたクジラの肉を原因食品とする *Salmonella enteritidis* による大規模な食中毒事件が発生した(大森ら 1989)。以降、松前町(図1)は鯨類の漂着を報告するよう町民に周知徹底し、処分過程の詳細な記録を残すようになった。2013年1月に、松前町からストランディングネットワーク北海道(SNH)へ、1992年から2002年における漂着鯨類の記録の提供を受けた。提供された写真から鯨種と性別を可能な限り判定した結果を報告する。

方法

記録は1988年以降収集され、鯨類の漂着記録は1992年から2002年に11年間分あった。漂着当時は松前町が独自に鯨種の判定を行っていたが、残されていた写真(図2)提供を受けた写真の一部抜粋、その他の写真については電子付録1参照)から、著者間で協議して鯨種を再度判定し、可能な限り雌雄の判別を行った。さらに、2013年5月時点の日本鯨類研究所鯨類ストランディングレコードと比較し、漂着記録の収録状況を調べた。

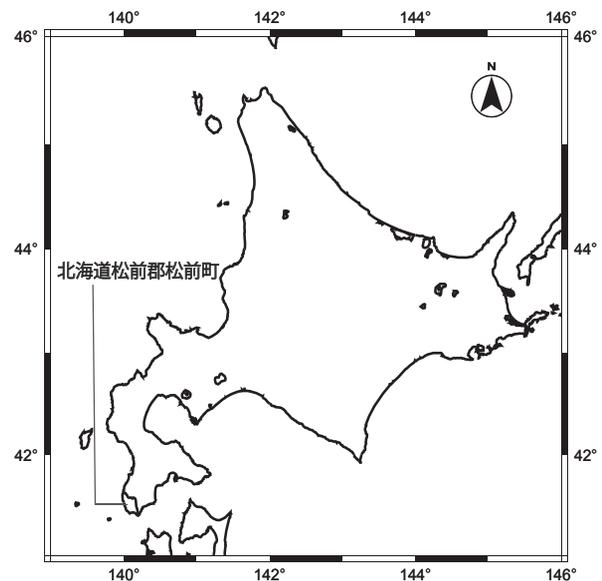


図1. 北海道松前郡松前町の位置

結果・考察

1992年から2002年にかけて13件の記録があった(表1)。そのうち、2001年3月22日発見(3月23日流出)、4月2日発見(4月3日流出)、4月5日発見(4月6日埋設処理)の3件は、い

1) 北海道大学大学院水産科学研究院, 北海道函館市港町3-1-1

1) Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University, 3-1-1 Minato-cho, Hakodate, Hokkaido 041-8611, Japan

2) 大阪海洋研究所, 和歌山県東牟婁郡太地町森浦703-15

2) Institute of Osaka Marine Research, 703-15 Moriura Taiji-cho, Higashimurogun, Wakayama 649-5172, Japan

3) 国立科学博物館動物研究部, 茨城県つくば市天久保4-1-1

3) Department of Zoology, National Museum of Nature and Science, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba, Ibaraki 305-0005, Japan

電子付録付報文:J-STAGEオンライン版(https://doi.org/10.5181/cetology.0.30_07)にて本稿の関連資料を公開。



図2. 松前町より提供された漂着個体の写真(一部)。撮影:松前町水産課

ずれも写真からオウギハクジラ *Mesoplodon stejnegeri* のオスと判断され、漂着日が近く、体長の記録が5mと同じことから、SNHでは同一個体と判定し登録した。その結果、11件11個体(SNH13901~SNH13911)の漂着記録が得られた。

提供された写真から種判別を行った結果、11個体の内訳は、オウギハクジラ9個体、ツチクジラ *Berardius bairdii* 1個体、ミンククジラ *Balaenoptera acutorostrata* 1個体であった。

松前町の記録でツチクジラと判定されていたものの多くが、外貌および体長からオウギハクジラであることが分かった。

1994年3月17日に松前町白神地先に漂着したオウギハクジラ(SNH13903)は体長340cmと記録されていた。オウギハクジラの出産期は3月末から4月ないし5月頃が多く、出生時の体長は2.2m前後であり(Jefferson et al. 2015)、同じ津軽海峡に面する北海道函館市において体長210.0cmのオウギハクジラ新生児が漂着している(2020年5月24日漂着、SNH20023)ことから、SNH13903は出産より概ね1年を経過した幼体であると考えられる。北海道内における同様の漂着は1985年1月に瀬棚郡北桧山町(現在の久遠郡せたな町)で344.0cmのオウギハクジラの漂着が報告されている(小野・木村 1990)。

これら11個体のうち、2013年5月時点での日本鯨類研究所の収集する鯨類ストランディングレコード(<https://www.icrwhale.org/zasho2.html>)に収録されていたのは、4個体(SNH13901, 13902, 13910, 13911)であった。そのうち、SNH13911については、松前町からツチクジラとして報告されていたが、日本鯨類研究所によるDNA判定結果から、鯨種がオウギハクジラへ修正されて収録されていた。収録されていなかった7個体の情報については、日本鯨類研究所のストランディングレコード及び下関鯨類研究室に2013年6月に報告し、あらたに収録された(石川 2014)。

2002年以降の北海道松前町における鯨類漂着記録について石川(2013)に記録されている日本沿岸のストランディングレコード(1901~2012)を調査したところ、2004年3月12日に種不明オウギハクジラ属1頭(体長5.3m、性別不明)、2007年のストランディングネットワーク北海道設立以降については、2010年3月21日にカマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens* 1頭(SNH10018、体長約2m、性別不明)、2013年1月5日にオウギハクジラ(SNH13001、体長524.5cm、メス)、2018年2月10日にイシイルカ(イシイルカ型) *Phocoenoides dalli* (SNH18005、体長211.0cm、オス)、2019年1月27日にイシイルカ(イシイルカ型)(SNH19002、体長140.0cm、メス)、2020年2月20日にミンククジラ(SNH20008、体長704.0cm、オス)、2020年6月17日

にオウギハクジラ (SNH20029, 体長475.0cm(残存部), メス)の合計7件7頭のストランディングが松前町より報告されていた。ストランディングネットワーク北海道が設立された2007年以降は, 更なる協力体制が築かれ, 小型ハクジラ類の報告も増えている。

今後もSNHでは, 漂着記録が着実に収集できるよう, 地域との連携を密に取って行きたい。なお, 松前町から提供された写真は, 本論文に掲載していないものを含めてSNHが保存しており, 請求に応じて学術目的で開示できる。最後に情報を提供していただいた北海道松前町水産課 佐藤健治様に深く感謝いたします。

引用

- 石川創・後藤睦夫・茂越敏弘(2013) 日本沿岸のストランディングレコード(1901~2012). 下関鯨類研究室報告, 1: 1-314
- 石川創(2014) ストランディングレコード(2013年収集). 下関鯨類研究室報告, 2: 21-43.
- 小野博之・木村方一(1990) 北桧山町海岸産Mesoplodon属の頭蓋骨の比較研究. 春日井昭教授退官記念論文集: 115-135.
- 大森茂・小林毅・鈴木欣哉・小野准子・吉田靖宏・横田秀幸・清水良夫・岡田隆幸・菊地由生子・高杉信男(1989) クジラ肉を原因食品とするサルモネラの食中毒事例. 札幌市衛研年報, 16: 147-150.
- Jefferson, T. A., Webber, M. A., & Pitman, R. L. (2015). Marine Mammals of the World 2nd Edition: A Comprehensive Guide to their Identification. 607pp., Elsevier, Amsterdam.

表1 1992年から2002年における北海道松前町の鯨類漂着記録まとめ

漂着日	時間a	場所a	鯨種a	鯨種b	体長a	体重a	雌雄a	雌雄b	処理a	ICRの記録c	SNH番号b	石川IDd
1992/2/12	11:30頃	松前町字白神地内(前浜)	アカボウクジラ	オウギハクジラ	4.6m	不明	不明	♀?	即日、松前町字建石の町有地内に埋没処理した。	あり	SNH13901	O-3945
1993/3/3	13:30頃	松前町字館浜地内(戸長川河口付近)	アカボウクジラ	オウギハクジラ	460cm	不明	不明	♀?	即日、松前町字建石の町有地内に埋没処理した。	あり	SNH13902	O-437
1994/3/17	12:40頃	松前町字白神地先	アカボウクジラ	オウギハクジラ	340cm	欠測	不明	♂	即日、松前町字建石の町有地内に埋没処理した。	なし	SNH13903	O-3946
1997/4/22		松前町字館浜円子体ヤ下	アカボウクジラ	オウギハクジラ	5.3m	不明	不明	♀?	海が浪が有り処分出来ず、4月25日に処分する。船外機船にて館浜港に引き、福島町上嶋営業場により、クレーンで釣上げ、トラックにて千軒の処分場へ、埋設する。	なし	SNH13904	O-3947
1999/1/2	7:00頃	松前町字茂草98番地先	ミンククジラ	ミンククジラ	4.1m	不明	不明	不明	埋設処理場所:松前町字建石216-1松前町清掃センター	なし	SNH13905	M-1942
1999/12/24	13:00頃	松前町字白神地先	ツチクジラ	オウギハクジラ	450cm	1.5t	不明	不明	即日、松前町字建石の町有地内に埋没処理した。	なし	SNH13906	O-3948
2000/5/14	13:00頃	松前町字二越25番地の3	ツチクジラ	オウギハクジラ	5.0m	不明	不明	不明	6/4現場にて解体処分	なし	SNH13907	O-3949
2001/3/22		松前町字原口182番地	ツチクジラ	オウギハクジラ	5m	約3t	♀	♂	3/23流出	なし	SNH13908	O-3950
2001/3/26	15:30	松前町字原口182番地先前浜	ツチクジラ	ツチクジラ	10m	約6t	不明	♂?	4/3現場近くの砂浜に埋設	なし	SNH13909	O-3951
2001/4/2	8:30	松前町字福山松城バス待合所地先前浜	ツチクジラ	オウギハクジラ	5m	不明	不明	♂	4/3午前9時に流出	なし	SNH13908	O-3952
2001/4/5	12:00頃	松前町字白神1038番地先	ツチクジラ	オウギハクジラ	5m	推定重量3t	不明	♂	4/6クレーンにて吊上げ回収し、松前町清掃センターに運搬、埋設	なし	SNH13908	O-3953
2002/3/5	8:30頃	松前町字赤天地先	ツチクジラ	オウギハクジラ	5.5m	2.2t	♀	♀	同日松前町清掃センターにて埋設処理	あり	SNH13910	O-3002
2002/11/12	7:20	松前町字赤神67-1	ツチクジラ	オウギハクジラ	3m頭部破損 残存部	1.5t	不明	不明	同日松前町清掃センターにて埋設処理。 DNA検査の為、肉片を日鷹研へ送付。	あり	SNH13911	O-1309

a: 松前町の記録(原文ママ), b: 本研究による判定, c: 2013年5月時点の日本鯨類研究所海棲哺乳類ストランディングレコードへの記録状況, d: 日本鯨類研究所のストランディングレコード及び下関鯨類研究所発行の日本沿岸のストランディングレコードにおける登録番号